

ねこ絵本とねこ雑貨の店 かぎしっぽ

自らの「好きなもの」で、 初めて経営に挑戦

猫をモチーフにした雑貨の数々。
本棚には、猫が登場する絵本がずらり。
猫好きにはたまらない店が誕生した。



「絵本」と「猫」がテーマの店

秋田市を流れる旭川沿いに「ねこ絵本とねこ雑貨の店 かぎしっぽ」がオープンしたのは昨年4月。店は一見、住宅街に建つ普通の民家。注意して見ると壁に猫のシルエットの飾りがある。店内は、民家の一部屋を改装したもの。猫に関連した絵本や雑貨、猫用のおもちゃが所狭しと並んでいる。

オーナーの佐藤明子さんは新潟県出身で、秋田市はご主人の故郷。夫婦と猫1匹(花子・15歳)で埼玉県からAターン。佐藤さんは大の絵本好きで、最初は絵本の専門店を開こうと考えていた。だが、「絵本も好きだし、猫も好き。だったら両方を兼ねた店をつくらう」と、当店を開いた。

“よろず”から、方向性が見えてきた

起業も経営も初めての経験だった。なんとか開店へとこぎつけたものの、「オープンしてからが大変だった。ずぶの素人から店を始めたため、経営について漠然とした不安があった」

モヤモヤとした思いを抱えて8月に駆け込んだのが、当センターの秋田県よろず支援拠点。経営上のあらゆる悩みに対応する、いわゆる“なんでも相談室”だ。「『何をどうしたらいいのか分からない』とか『これから先、どう

すべき?』。といった漠然とした質問だったにもかかわらず、いろいろ思いや悩みを聞いてくれた。話をするうちに、店のコンセプトや本来やりたかったことが、どんどん見えてきた」と振り返る。相談して不安が解消されたことで、さまざまなアイデアが湧き出した。その1つがイベントの開催だ。

店を猫の情報発信基地に

よろず支援拠点のアドバイスのもと、企画、スケジュールリングを練り上げた。そして12月に秋田拠点センターアルヴェで開催したのが、仙北市出身の落語家、柳家さん若氏を招いての猫の噺の落語会。40人ほどの観客が集まり、大いに盛り上がった。「開催日から逆算してどのような段取りで進めるか、情報発信はどうするかなど、細かなアドバイスをもらい、すごく勉強になった。この経験を生かして、今後も定期的にイベントを開催したい」

店の集客も順調で、口コミやイベント経由で客が増えている。猫好きのみならず、猫好きへのプレゼントを探しに来る人、猫を飼っていて“猫談義”をしに来る人など、理由や目的はさまざまだ。佐藤さんは「買い物はもちろん、猫関連のイベント情報だったり、猫談義だったり、猫の話題で楽しめる情報発信基地にしたい」と店のこれからを語る。⑬



新米オーナーながら、もうすぐ1年を迎える佐藤明子さん。



イベント情報は、チラシ、ブログ(※右記URL参照)、フェイスブックで発信している。



かぎしっぽの目印は、入り口脇の猫のシルエットマーク。

ねこ絵本とねこ雑貨の店 かぎしっぽ

秋田県秋田市濁川字管場6-59
TEL.018-874-8361
営業時間/10:00~18:00
定休日/日曜・祝日
<http://kagishippo.keytail.catfood.jp>